

新潟県立武道館建設の歩み No. 3

2018年（平成30年）6月7日（木）

新潟県弓道連盟 副会長兼理事長 渡邊恵兒（記）

5月初旬の第二報では、杭打ち機4機が林立して中旬までの杭打ち作業の完了を目指して、大型クレーンとのコンビで急ピッチの作業をしていました。

その杭打ち作業は5月15日頃には終了、その後、順次、杭打ち機が解体整理され、いまは大型クレーンとユンボがうなりを上げていました。

5月31日（月末）現在の工事進捗率は9%で、ほぼ予定通りだということです。



上記写真は、県立武道館建設用地の平成30年6月7日現在の建設風景です。

大型クレーンは、基礎の鉄筋組立工事に供給される資材（鉄筋類）を供給しています。

5～6台のユンボは、基礎コンクリート部分の掘削と出てきた廃土をダンプに積み込む作業をしていました。廃土は、写真にある建設予定地の看板の前に運び、整地されていました。ここは直接武道館の建設用地になる訳ではないものの、周辺整備に供される予定だという説明でした。

建設工事は、建屋部分の基礎部の鉄筋組立、型枠組立、コンクリート打設作業が建屋北側（テニスコート側）から進められています。



上記写真は、武道館の北側部分で進められている鉄筋組み立て工事。

まだ工事写真だけでは全体がイメージできないかもしれませんが、この写真の右手（北側）は道路を挟んで、すでに供用されているテニスコートになります。つまり、見取り図からすると完成時の正面から見て右手に有る、吹き抜けのアリーナ辺りと思われます。

武道館の建設作業は場所別に順を追っての作業になっているようです。

現在は、建屋北側（大型アリーナ側）から作業が進んでいるように感じられます。

弓道場は正面向かって左側になるので、今は基礎部分の掘削作業中かと思います。

第二報でも紹介しましたように、この辺りは地盤が軟弱で基礎部分を掘削、ひと冬野晒しした客土との入れ替え工事から進められています。

工事業者の大半が、毎日新潟からの通勤との話で、下の写真のダンプの運転手も車をここに置いて、新潟から通っているとのことでした。（作業員も大変ですね。暑いのに！）



上の写真はひと冬野晒しにした土を軟弱地盤と交換します。
下の写真は、弓道場辺りに相当するところの掘削工事です。

今月の15日には、県庁にておそらく最後になるであろう建設者を含めたヒアリングが予定されています。

昨年のヒアリングでかなりの改善点を指摘、設計業者も快く改善に取り組んでくれました。今回のヒアリングではこれまでの見取り図的な図面だけでなく、詳細設計を基にした説明がなされると思います。

これで、県立武道館の全容が把握できるようになると思います。

日に日に姿が見えてきそうで、楽しみです。次報をお楽しみに。

第三報 完